

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、つぎのとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願いたします。

記

1 情報の内容 キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の夏季発病に対する注意喚起

2 本年の発生と今後の発生予想

6月までに、17園地、1.9haで新たな発生が確認されている。発生が確認された品種はヘイワード、ホート16A、レインボーレッドである。

- (1) 6月中下旬の気温が低く、天候不順に推移したことから、既発生地域においては病原菌密度が高まっていることが推察される。
- (2) 7月9日発表の1か月予報では、平年より降水量が多いとの予想で、発生に助長的であり、今後とも発生に注意する必要がある。

3 当面の防除対策

夏季における発病は、春先と比較して発病程度や頻度は低いものの、発病部位では病原菌濃度は高いことが推察され、感染リスクが高まる秋季においては、発病拡大要因の一つとなることが懸念される。このため、次の点に留意した発病が確認された場合には適切に対処する。

- (1) 園地見回りを頻繁に行い、上記症状を見逃さないよう早期発見と病徴部の早期除去を行う（伐採基準については、平成27年4月改訂の「キウイフルーツかいよう病 Psa3 型の当面の防除方針」に基づき発病程度に応じて早く対応する）。
- (2) 発生が確認された園地は上記対策を行うとともに、コサイド3000の2,000倍（平成27年3月4日付け適用拡大、使用時期：収穫後～果実肥大期、葉害軽減のため炭酸カルシウム剤200倍を加用）、アグレプト水和剤1,000倍（使用時期：収穫90日前まで）、マイシン水和剤1,000倍（使用時期：収穫90日前まで）またはカスミン液剤400倍（使用時期：収穫90日前まで）などを散布する。なお、コサイド3000は品種によって葉害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用する。

(参考) 梅雨時期以降（秋季まで）に発生する症状

- (1) 葉の症状：新梢先端葉および徒長枝葉（未成熟葉）に斑点症状を呈する（写真1）
- (2) 枝の症状：結果母枝の枯死（写真2）、果実のしなび（写真3）



写真1 発病葉



写真2 結果母枝の枯死



写真3 果実のしなび